

会 議 録

会議名	令和6年度第1回 野田市特別職報酬等審議会
議題及び議題 毎の公開又は 非公開の別	1 会長及び副会長の選出について（公開） 2 議員報酬及び特別職の職員の給料について（公開）
日 時	令和7年1月22日（水） 午後1時30分から午後2時40分まで
場 所	市役所8階 大会議室
出席者	会 長 原 崇人 副会長 斉藤 弘美 委 員 木村 公平 澤田 修 宇田川 仁 鷺尾 真由美 事務局 鈴木 有 （市長） 今村 繁 （副市長） 大久保 貞則 （総務部長） 小嶋 亮 （人事課長） 大野木 亮二 （議会事務局主幹（兼）庶務係長） 山形 好人 （人事課長補佐（兼）人事研修係長） 中島 栄治 （人事課給与厚生係長） 岡田 恵里子 （人事課主査）
欠席委員	大塚 裕生、山本 和也、古川 愛美
傍聴者	なし
事務局	1 開会 会議の公開について、審議事項に非公開とするべき事項がないため公開で行うこととし、市ホームページにおいて市民へ周知していることを報告する。開会の時点で傍聴希望者がいないこと、審議途中で希望する者があった場合に傍聴を許可することを説明。 委員9名中、6名の委員が出席しているため、野田市特別職報酬等審議会条例（以下「報酬等審議会条例」という。）第7条第2項の規定により、

市長	<p>会議が成立していることを報告する。</p> <p>2 市長挨拶</p> <p><挨拶></p> <p>3 議題</p> <p>(1) 会長及び副会長の選出について</p> <p>委員の更新後、初めての会議となるため、会長及び副会長を委員の互選により選出した。指名推薦で会長は原委員、副会長は斉藤委員に決定する。</p> <p>その後の議事進行については、報酬等審議会条例第7条第1項により、会長が議長を務める。</p>
事務局	<p>(2) 議員報酬及び特別職の職員の給料について</p> <p><議員報酬及び特別職の職員の給料について、資料を基に説明></p>
原会長	<p>今回の議論としては、いろいろな情勢を鑑みて、特別職等の報酬について引き上げる方向で考えてはいるけれども、そのことについて委員から意見を伺いたいということによろしいか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p> <p>本日の審議会でいただいた意見を十分に考慮して、具体的に、例えば金額をどうするとか、そういったところも含めて再度我々のほうで検討させていただいて、次回の審議会でお諮りしたいと考えている。</p>
原会長	<p>質問、意見等を求める。</p>
木村委員	<p>資料1 ページ「1 議員報酬及び特別職の給料について」に、「議員活動の量が増加し、その質や内容がより高度なものに変化している」とあるが、この根拠は何かデータに基づくものか。</p>

事務局	<p>たとえば議員活動の量について、当然これを図る単位というものはないが、市役所職員も同様に時代が進むにつれて市民からの要望であったり、市民だけでなくいろいろな団体からの要望であったり、その内容が非常に多様化しているという状況がある。議員は市議会議員なので、当然地元住民からの要望もあり、非常に複雑かつ多岐にわたるようなところがあって、一つ一つきめ細かい対応をしなければいけないという状況になっている。このような状況を踏まえて、その量が増えてきたという表現をした。</p> <p>いろいろな議員と話す機会があるが、ベテランの議員からの話で、だいぶ昔は違ったというようなことを聞いている。</p>
木村委員	<p>実際にそういう声があったということで理解した。</p>
原会長	<p>議員の定数か人数を比較したいが、わかるか。</p>
事務局	<p>5 ページに記載している東葛 9 市の定数について報告する。</p> <p>船橋市は50人、松戸市は44人、市川市は42人、柏市は36人、流山市は28人、浦安市は21人、野田市は28人、我孫子市は24人、鎌ヶ谷市は24人。</p>
原会長	<p>次回に、人口規模が近い団体の情報を全団体でなくて構わないので何かしらいただきたい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
原会長	<p>おそらく引き上げ自体はそれほど大きく反対する方はいないのではないかと感じているが、実際に引き上げるとして引上げ額をどのくらいにするか、事務局の方である程度考えがあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>議員報酬の決め方は、おそらく正解が 1 つあるわけではなくて、市独自の風土であるとかいろいろなところの情勢があって決まってくるものと考えている。</p>

	<p>そのような中で、やはり近隣市であったり、人口規模が近い団体だったりととの比較というところでやっていくということが一つの手法なのではないかと考えており、委員の皆様の意見を聞いて、次回、諮問したいと思っているが、一つに一番現実的ではないかと考えているのが人口14万人から16万人の市町村の同規模団体、いわゆる類似団体であり、こういったところとの差分を見て決めるというところで考えると、1万5,000円から1万6,000円程度の引上げというところが現実的なのかなと現在のところは考えている。</p>
原会長	<p>次回、金額の案が示されるのであれば、計算の根拠をいただきたい。</p>
事務局	<p>当然そういう根拠や具体的な事例も含めて提示したい。</p>
原会長	<p>先ほどの議員定数のことを聞いたが、やはり1人の議員ではなくて議員全体でいくらの報酬が払われているのかという観点も大事かと思うので、その数字もいただきたい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
宇田川委員	<p>人口が14万人から16万人の市の平均というのは、今現在の平均か。この41市も野田市と同じようにこれから引き上げるとか引き上げないとか議論をするかもしれないが、あくまでも現状との比較という意味でよいか。</p>
事務局	<p>41市であるが、議員報酬等については、前もって来年議員報酬を引き上げるとかそういう情報はなかなか教えてもらえないところであって、大体、議案として議会に提出された段階でようやくわかるというのが実情である。</p> <p>やはりこの賃上げの傾向は千葉県とか、この地域だけに限らず全国的に広がっており、多くの自治体で実際上げるとまでは言わなくても、一定の議論はあるものだと思っている。</p> <p>そのような中では、やはり現在、公に出ている数字と比較をして、現</p>

<p>宇田川委員</p>	<p>状、野田市においてどうするかというところで考えていきたいと思っている。全ての市が上げるかどうかということについては、現状わからない状況ではあるが、そういうところもあるかとは考えている。</p> <p>そうすると、引き上げはしたが、出揃うと思ったほど縮まらなかったとかそういうことにもなるかもしれないということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>近年の傾向として、やはり報酬の改定をする団体の方がかなり少ない状況である。そういうことからすると、来年度になって、例えばこの表を見たときに、今年の状況とそんなに変わらないと考えているが、情報収集については、しっかりやっていきたい。</p>
<p>木村委員</p>	<p>報酬を引き上げた場合に、いつから変わる予定か。</p>
<p>事務局</p>	<p>議員報酬と特別職の給与等については、条例事項であり議会の議決が必要である。</p> <p>今後の予定としては、2月中の開催を予定している次の審議会で諮問させていただいて、そのときに答申がいただければ、早速ではあるが3月6日に議会に提案して今年の4月1日からの運用というところを考えている。</p>
<p>木村委員</p>	<p>4月1日からと理解した。</p> <p>私は連合の立場で来ているが、普段はキックマンで働いていて、ここ2年でキックマンは2万2,500円のベースアップをした。</p>
<p>斉藤副会長</p>	<p>物差しをどうするかというのが一番重要で、いろいろなデータを基にして、議員報酬をどうしようかという議論の中で、これまでの説明と委員の意見をまとめると、やはり類似団体などの数字が必要だと思う。これを一つの物差しとして決めていくのが良いだろうと考える。会長が言うようにいろいろなデータがもう少し欲しいという中でこの物差しをどうしていくか。その辺の議論が次回の諮問の中で、委員の中からいろいろな意見が出</p>

<p>鷺尾委員</p>	<p>て、この方法が今の中ではベストだという答えが出るのではないかと ふうを考えている。</p> <p>個人的にはこういういろんなデータを見て、引上げすることについて反 対ではない。ただ、住民の目線というか、市民の理解をどうように得てい くか。物価が上がって、それから賃金もベースアップがいろいろ検討され ているという背景はあるが、例えば、議員活動の量が増えているという話 があった。議員全員がそうかという、市民目線で話すと、議員によって いろいろ違いがあるはずではないか。すごく熱心に取り組む人もいれば、 極端に言うとも何もやらない人もいる。そういうふうに議員といっても活動 の量がいろいろ個人で違う。だけれどもこの報酬を上げるとなると全員が 一律ということになる。だからそういうような点を考える、市民の人が議 員の活動をどのくらい評価しているかが大事で、市のお金で報酬を引き上 げることは良いことだと思うが、なかなか自分はそうもいかないのになぜ 議員ばかりと思う市民もいる。もちろん市もそういう市民の反応も気にな ると思うが、それについてどういうふうに説明をきちんと理解してもら えるような説明をつけられるか、そこも大事なことだと思う。結局は議員 の給与上げると市民からのそれに対する反応が議員に向くことになる。だ から、議員としても上げてもらっても、それに答えうる自分なのかってい うこともあると思うのでその辺もいずれもしかすると、何か不満として出 る。市民からの声としての不満が出るっていうそういった状況も予想でき るので、やはり良くそこは基準をしっかりと説明がきちんとできるよう、 ほかが上がっているから上げるではだめだと思う。</p>
<p>澤田委員</p>	<p>私は商工会の方で千葉県連合会の人事をやっている。正確な数字は今持 ち合わせていないが、そちらでも商工会並みか少し引き上げる検討をして いる。いろいろ出ている情報を参考にしたい。</p>
<p>原会長</p>	<p>基本的に今の状況で、しかも平成9年から全く変わってないっていう状況 考えると、やはりある程度上げるといことの方角性は大事で、そこはし っかり検討しなきゃいけない状況に来ているのだと思う。</p>

<p>宇田川委員</p>	<p>意見があったように市民の納得っていうのは非常に大事な視点で、やはり上げたっていう根拠をなぜこう上がったのかということをしっかり説明できるような根拠があったし、必要があるだろうなというところで、ぜひ次回の審議会ではそのあたりのところの説明と数字があって議論が進むとよい。</p> <p>市民目線の話があったが、働かない議員は次の選挙で落選するのではないかと思う。</p> <p>先ほどキッコーマンの話があったが、私ども千葉銀行も若手を中心にベースアップが働いている。</p> <p>世の中の流れの中で、給与を引き上げなきゃいけないとどこの民間の経営者たちも思っているものの、引き上げる原資がなければ引き上げられない。野田市においては、健全な財務体質であることはひとつのプラスサインであることは間違えなくて、そこは全面に押し出しつつ、引き上げが世の中の風土もそうだし、市の財政もそうだしそういう環境が整っていることなのだと思う。</p> <p>あとは、市民は何と比較するのかというと、自分の給料が上がってないとか上がっているとかで、そこら辺なのかなっていうだからテレビでよく報道されている民間企業の賃上げ率がどうだとか春闘でこれだけの要求するだとか。引き上げの金額の根拠は他の市町村のとの金額と比較で良いのかなと思うが、いわゆる納得感という意味では、やはり民間であるとか世の中の給与水準のベースアップはどれくらいで、今回、野田市はこう考えたっていう比較が必要ではないか。</p>
<p>原会長</p>	<p>事務局の方から次回に向けて聞きたいことはないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど、市民感情という話があった。この市民感情が一つであればいいが、市民感情というのは様々で、特に民間の大企業が40万円の初任給とか、10万円以上で引き上げるとか、そういう我々からするととんでもないような話がある。</p> <p>一方で、中小企業で働いている多くの方はなかなかそれが追いついてい</p>

かないという中で、議員の報酬が引き上がる。引き上げるべき時期については、ここ何年かのことでいうと遅過ぎるぐらいだとも思う。そういう中で全ての市民が満足するようなことはありえないと思っており、市ではそういういわゆる議員が、職員としての議員活動っていうのも、もう尊重していかなければならない。なり手がいなくなってしまうのではないかということが一番すごく心配している。公務員も実は非常になり手が少なくなってきた。国もその点すごく懸念していて、今年の人事院勧告で地方に人材を取られているみたいな話をしているぐらいなので先生も相当少なくなっているけど、今の民間の賃金水準の特に大企業とか有名企業の上げからいくと、公務員になりたいっていう人は今後減っていくだろうというような中で、議員になりたい方も本当に減っているのだという実際に減っているのではないかということも考えている。その辺をやはり解決しなきゃいけないと考えているところが市民感情としてはどういうふうに、議員のなり手がなくなることと、あと市民感情というのは、どこの市民を最大公約数と見るのかとか、これも難しい話だが、私の方でも市民感情って。今までこの平成30年に期末手当の引上げの条例案に対して、報酬の検証を優先すべきということで議員の方から議案の修正があった状況の中で、コロナ禍になってなかなか経済的な状況もあって、そういう上げる議論できる機会がなく止まってきたということもあるので、市民感情を満足させるというのは実は非常になかなか難しい問題だと思っているので、どういうふうなことを示すのが一番良いか何かあれば教えていただきたい。

鷺尾委員

市民感情という言い方をしたかもしれないが、言いたいのはもちろん市民の人それぞれにあるので、「やっとながったのか」という人もいれば、「私は上がらないのに議員はろくにやらないのになぜ」といろいろな受け取りがあるとことを申し上げた。

どうしてこれだけ議員報酬を上げるのか。その説明が上がることについて様々な受け取りは市民の人それぞれあるけれども、一応納得できる説明、こういう点でこういうことを考慮してこういうふうに決めたという、一応その説明をきちんとできるようにしておかないといけないんじゃないかと。世間がベースアップだから、ずっと上げてないから、そういうよ

事務局	<p>うな他市町村が上げたからとか、そういうことでなくて。もったきちんと説明が野田市としてこういうふうと考えて、こういうふうに行っている。何にしろ一応きちんと説得できる説明をお持ちになった上で、上げる上げないを決めてないと、理解を得られるかどうかは一人一人の置かれた状況や考えによるが、一応きちんとしたものがあれば市民の方は最終的には仕方ないという納得をするのではないかなと市民の一人として思う。</p> <p>そういう意味で申し上げた。</p> <p>そういうことでいろんな市民がいるので、その説得力のあるということについては十分説得力のある資料が作れることができると思っている。ただ先ほどの説明の中になかったことで平成9年からずっと上げていない中で、当時この審議会は、引き上げるときに委員を委嘱し、諮問して答申をいただいたらもう解散してということで、ずっと委員がいないという状況が続いていたので。そういう意味でもその機会をなかなか伸ばしてきた面もあるということで、今は常設に変えさせていただいたのでその見直しについても、ある程度、今までのように30年近く見直さないという形ではなくて今後も見直していかなければならない。</p> <p>今後の諮問を次また10年、20年やらないということではなく、先ほど人口14万人から16万人の団体の平均で変えても、他団体が上がってきて結果、平均ではなくなっているということもあり得るので、報酬審議会を常設にしているので、その辺をどのタイミングで計るかということも意見を伺いながら、改定したとしても今後とも判断していきたいというふうに基本的には考えております。</p>
原会長	<p>おそらく完全な納得というのは世の中にはない。</p> <p>ただ、先ほど申し上げたし、仕方がないかと思えるレベルの話だとは思う。反対は、なんだって反対する人はいるわけで、個人的には多数決で決めていく世界の話にはなるけれども、ただそういった反対する人もなかなかここまで言われたら難しいよねというようなところの話ができれば思っている。</p> <p>今、事務局から説明があったように別にこの審議会は報酬上げるための</p>

	<p>審議会ではなくて、場合によっては下げるということもあるわけで、現状は上げるべきときだと考えるという話。時期によってそういうご時世になるかわからないが、ちょっと議員報酬高すぎないか、下げるということで諮問をもらうこともありうるので、今回は上げる方向の話だけれども、常設の審議会だから、時と場合によっては30年も寝かさずに上げるべきときは下げるとそういった話もしなければいけないということを前提に考えたい。</p>
木村委員	<p>増額改定した柏市とか我孫子市は何を根拠に上げたのか。</p>
事務局	<p>柏市は、前回審議회를柏市の方で実施しましたのが平成29年になり、その翌年になる平成30年から令和5年までの人事院勧告で示された官民格差の率の累積が1.45%、この数字をもって引き上げをしている。</p> <p>我孫子市は、毎年の人事院勧告で示された官民格差の率をもとに変更を行っている。</p>
原会長	<p>ほかに意見等あるか。</p> <p>(なし)</p>
事務局	<p>審議会終了</p>